



EBENEZER  
OPERATION EXODUS

エベネゼル緊急基金  
出エジプト作戦

# アリヤーの ための とりなし

「わたしは、わたしの山々をすべて道とし、  
わたしの大路を高くする。見よ。ある者は遠  
くから来る。また、ある者は北から西から、ま  
た、ある者はシニムの地から来る。」

イザヤ49章11節～12節



# アリヤーのための とりなし

国際



ピート・スタッケン  
Pete Stucken

国際エベネゼル緊急基金  
エベネゼル議長

なぜ多くの国々のクリスチャン達が、ユダヤ人が遠くからイスラエルへ帰還するのを支援するのでしょうか。このアリヤーは、現代と歴史、また、聖書的預言と終末の時代をどのように関係づけるのでしょうか？

「その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買い取られる。主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」  
イザヤ書11:11-12

私たちは今、驚くべきこの「再び」の時代に生かれています。イザヤがこのことばを書いてまもなく、大混乱と悲劇がユダヤ人を襲いました。それは、ネブカデネザル王によるエルサレム破壊と、バビロンへのユダヤ人捕囚です。失われたものについて嘆くことは、ユダヤ人の捕囚初期の様子を象徴しています。「バビロンの川のほとり、そこで、私たちはすわり、シオンを思い出して泣いた。…」(詩篇137:1)

彼らは初めはシオンについて痛みとあこがれとともに思い出していました。しかしそれから年月が経つ中で、彼らは働き始め、捕囚における生活を成功させようとしていました。心の痛みは弱まりそこでの生活は定着しました。そして若者たちは結婚し、赤ちゃんが生まれ、持っていた技術などを生かしました。こうして、ユダヤ人はバビロン帝国の中でも繁栄したのです。

ダニエルはバビロン捕囚として連れて行かれた若者の一人でした。彼は賜物があつたので、まもなく責任ある立場へと進んでいきました。彼は後になって、神からの人生を変えられる啓示と、捕囚の民に対する祈りの重荷を受け取りました。預言者エレミヤを学ぶ中で彼はこう言いました。「まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。」(エレミヤ29:10)そして今や、長い捕囚の時代が終わろうとしていたのです！70年が過ぎたのです。イスラエルの神の願いと目的は、「あなたをこのところへ

帰らせる」ということでした。「この所」とはエルサレムです。帰還の時が来たのです！

ダニエルは行動を起こしました。「・・・そこで私は、顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。」(ダニエル9:3)

アリヤーの大路が開かれる為に、まず私たちにとって優先すべき事は、祈りの中で主を求めるということです。ダニエルは祈り、アリヤーのためにとりなしました。(ダニエル9:4-19)そして彼の祈りは聞かれたのです。

紀元前538年に、メディア人とペルシャ人がバビロンを倒しました。そして、クロスが帝国の支配者となりました。そして驚くべき展開の中で、この異邦人の王が、ユダヤ人が宮を再建するためにバビロンを出てイスラエルへ帰還することを支持する宣言したのです。11歴代誌36:22で、主がペルシャの王クロスの霊を奮い立たせたと説明しています。

このようにしてアリヤーが始まりました。ゼルバベルはまず5万人のユダヤ人を率いてイスラエルへ帰りました。全員が帰りがたっていたわけではありませんでした。中にはバビロンに定住し、そこでの生活が快適になっていた者もいました。イスラエルへの旅は、辛い危険な旅でした。



写真：エチオピア人のオリムをイスラエルへ歓迎する





60年後ユダヤ人の大多数はその呼びかけに応じませんでした。エステル女王の時代、反ユダヤ主義が台頭し、ハマンは王国中のユダヤ人を全滅させるという邪悪な計画をたてたのです。エステルは祈りと断食をして、神のあわれみによってユダヤ人に対する災害を免れることができました。

その15年後、祭司であり律法学者であるエズラはもう一つのグループのアリヤーを導きました。エズラはヘブライ語のみことばの理解を回復させることに情熱をもっていました。彼は聖書的に示された時代と祭りを定め、朗読されるべき聖書の箇所を示しました。そして礼拝の回復も始まりました。

多くのユダヤ人たちがアリヤーしました。しかしそれでも驚くべきことに多くのユダヤ人はバビロンに残りました。紀元前445年に、クロス王の宣言以来ほぼ1世紀後、ネヘミヤはさらに別のグループを集めて、出発しました。その任務は町の城壁を建て直すことでした。しかし、アリヤーは困難に思われました。いったん長い旅が終わり、城壁の再建築が始まると、その働きは大変なものであり、また周りにいる人々は、ユダヤ人たちがそこに戻ることには抵抗しました。そこで、ネヘミヤは、城壁を建て直す働きとともに、敵からの攻撃に備える武器を用意して守備も行わなければなりませんでした。城壁の再建築を阻もうとする企みや嫌がらせや攻撃は常に襲い掛かってきました。

しかしそのような中でも城壁が建て直され、

宮の再建築も進んでいきました。アリヤーは、100年以上の間に、3、4世代の間継続していきました。

バビロンからのアリヤーは準備でありリハーサルでした。つまり、やがて起こるより偉大な終末の時代のアリヤーとともにイスラエルが回復するための準備だったのです。

今日、私たちは「再び」の時代に生きております。もう一度ユダヤ人たちが預言者たちに与えられたみことばの成就の中でイスラエルへの帰還をしています。今回は、驚くべき数のユダヤ人たちが帰還しているのです。2度目のアリヤーは1度目をはるかに超えています。彼らはバビロンからだけではなく、地の四方から(イザヤ11:12)帰還しているのです。1890年代以来、彼らは北の地方からも帰還を始めました。そして1947年の国連(異邦人)宣言とともに、アリヤーの門が開かれ、350万人ものユダヤ人たちが国々からイスラエルへ帰還するようになったのです。

しかしこれはただ始まりにすぎません。私たちの献身はダニエルのように祈り、主を求め、神の約束が完全に成就することを求めるのです。私たちは、主が、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められるまで、決して祈りをやめてはいけません。

## 用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):

1929年C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人



写真:エベネゼルが支援している「ナール教育プログラム」を通して、ノボシビルスクからアリヤーする若者たち



# 神の導きによる出会い

ウクライナ



ヤンヤ  
Yanya  
ウクライナチーム

オルガの幼少時代は悲惨なものでした。そして今はひどい病に苦しんでいました。しかし彼女は、ウクライナを離れて約束の地で家族とともに新しい生活を始めるという希望によって強められました。

この家族は非常に貧しい生活をしていました。というのも、オルガは癌を患っており、夫の仕事は不安定で収入が十分ではなかったからです。私たちは、彼らと4歳の子供のためにハヌカの食料品ボックスとお菓子を持ってヘルソンにある彼らの家に着きました。彼らは喜びでいっぱいでした。なぜなら、彼らはそれまで丸二日パンを食べていなかったからです。私たちは彼らに神様がユダヤ人にもっておられるご計画について、またクリスチャンは彼らがアリヤーできるように祈り、また実地的な支援もしていることを伝えました。

オルガと夫はこのことを一生懸命聞いていました。そして突然オルガの表情が明るくなりました。そしてこう言いました。「私はあなたの声を聴いてすぐ誰かわかりましたよ。ヤンヤさん。私はずっとあなたを見つけたいと思っていたんです。そしてあなたは今こうして私の家に来てくれたなんて。私は今23歳ですが、13年前にあなたと外国人たち(エベネゼルのボランティアたち)が私の家に来て、イスラエルについて私の家族に話してくれたんです。でも、私の両親は二人ともアルコール中毒で、あなたが話してくれ

たことを真剣に考えることができなかった人です。」

彼女の両親が亡くなった後は、オルガは親戚の家に預けられましたが、ひどい扱いを受け、奴隷のように働かせられ、子供たちの世話をさせられ、食器棚の中に閉じ込められたりもしました。それで彼女はある日そこから逃げ出しました。警察を訪れた彼女は、警察官に事情を話すと彼女を孤児院へ送り届けてくれたのです。そこで、彼女は自分の将来の夫と出会いました。

オルガは少し黙って、自分の重病について考えていました。今は回復に向かっているのですが、当時は子供を置いて死にたくないと思っていました。いつか私に再会したいという夢を抱いていただけでなく、いつかイスラエルへ行きたいと願っていたのです。彼女はなんとか生き延びてイスラエルの地で息子を育てたいと願っていたのです。そこで、彼女は、私たちに家族3人がアリヤーするのを支援してほしいと頼みました。私たちは喜んで支援することを伝えました。

「私たちが結婚した時に、私は夫にクリスチャン達について話し、彼らは私たちユダヤ人が約束の地へ帰還するのを支援してくれることについて分かち合っていたのです。」と言いながら、オルガは泣いていました。これは本当に神様によって導かれた出会いでした。





# 忍耐が報われる

エウヘニアはイスラエルに行くことについて以前は絶望していましたが、今はそこに行くことを固く決心しています。

エウヘニアは、二人の娘、カロリーナ（11歳）とヤナ（3歳）と両親とともにウクライナのドニエプロペトロフスク地方に住んでいました。彼女の祖父がユダヤ人でした。「彼は生涯イスラエルへ帰還することを夢見ていました。しかしその夢はかないませんでした。」と彼女は私たちに告げました。第二次世界大戦の間、彼は地下室や森に隠れ住み、ユダヤ人だと気づかれないようにするために、息子（エウヘニアの父親）の髪の毛を切りました。

エウヘニアの両親は二人ともプロの演奏家でしたが、イスラエルへは帰還しませんでした。それで、彼女には家族の書類がなくなってしまっていて見つからないと伝えていました。大学を卒業した後、エウヘニアは15年間銀行に勤めていました。彼女の友人がイスラエルへ帰還しそこで幸せに暮らしていることを知りました。その友人がエウヘニアにユダヤ人を証明する家族の書類を探して帰還するよう励ましました。彼女はその考えにとっても興奮し、自分も二人の娘たちもイスラエルに住む方がより良い生活ができると思いました。

彼女は紛争中ではあったのですがドネツクに行き、ユダヤ人を証明する祖父の書類を探しました。「私は何とかたくさんの書類を見つけそれを領事を持って行き調べてもらいました。」そして遂に彼らはイスラエルのビザを取得することができました。彼女は両親にそのことを伝えました。すると彼らはアリヤーすることについて関心を持ったのです。というのも、彼女の父が教えている音楽学校の生徒がイスラエルへ帰還したことを聞いて以来、アリヤーすることに前向きになっていたのです。

エウヘニアは特に次女のために喜んでいます。「ヤナは右手が先天奇形で、指が3本しかないのです。彼女には義手が必要なのです。」と言っていました。この種の手術はウクライナでは不可能で、モスクワではあまりにも高額になります。しかし、エウヘニアはハイファの近くにあるランバン病院でその治療が受けられることを願っています。この家族はハイファに住む予定です。

「ハヌカの時に送ってくださった食料品ボックスや、パスポート取得のための支援や、領事に面会するためにドネツクへ送り迎えしてくださり、本当にいろいろありがとうございました。」とエウヘニアは感謝していました。

ウクライナ



タティアナ  
Tatiana  
ウクライナ地域代表





# 国々からのアリヤー

エベネゼル出エジプト作戦は、1991年に旧ソ連の国々からオリム達がアリヤーするのを支援するところから働きを始めました。その時以来、私たちはこれらの国々における働きを続けてきましたが、今日その働きは成長し、現在は下の地図にある国々からのオリムの支援もしています。主は聖書の預言の成就のために、世界中の国々から神の選びの民を集めておられます。そして、この聖なる働きに加わることができるというのは、私たちにとって大きな特権なのです。







「その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買い取られる。主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」

イザヤ11章11節～12節





# 努力が報われる

ウクライナ



アントニナ  
Antonina  
ウクライナ代表

準備には大変な努力を要しましたが、マリナはアリヤーすることが家族にとって正しいことだと知っていました。

た。マリナの努力は本当に報われたのです！

彼女の祖母はユダヤ人でした。それでマリナはアリヤーについて知るとすぐに自分がアリヤーする権利があることを証明する書類を探し始めました。しかしその過程は長く、いくつかの公文書保管所へ問い合わせをしたり、直接訪れる必要もありました。しかしバスに乗って出かけるには国道まで9キロの道のりを歩かなければなりませんでした。時には車を借りる必要もあり、それはお金のかかるものでした。

このようにマリナが忙しく書類を整えている間に、夫のルスランはウクライナの軍隊に徴兵され国の東部で戦闘に行かなければなりませんでした。その後彼は無事戻り、マリナは彼とともにハリコフでのアリヤーフェアに参加しました。そこで、彼らはイスラエルで住む町を選び、最終準備とビザ取得のためにイスラエル領事との面接の予約を入れることができました。



ロシア

## 有名な足跡をたどって



ボローニャ&ルーバ  
Volodya & Luba  
ロストフリーダー

エルサレムにあるハダッサ医療センターに飾られているマーク・シャガールのステンドグラスは世界的に有名です。彼の親戚が今彼に続いて、聖なる地へ向かおうとしています。

ことそのものが、神のご自身の民への目的の一部なのです。

アレクサンダーはある日私たちの支部に来て自分のことを少し分かち合ってくれました。その時に、私たちは有名なユダヤ人の画家と彼が親戚であることを知りました。アレクサンダーは、自分が無神論者であるけれども、イスラエルへ帰還したいと願っていました。実際、学生のころ、彼は「神の神話の誤りを暴く」という論文も書いていました。しかしながら、彼は約束の地には何か特別なものがあり、そこでだけある種の安心感を持つことができることを認めていました。

私たちは、彼がその地をユダヤ人に与えるという約束の陰におられる方がいるということを理解できるように祈りました。彼がアリヤーすることを決心したという





# 父と息子が再会する

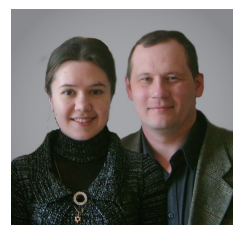
イスラエル在住のある父親は特別な再会を楽しみに待っていました。彼はエベネゼルの支援に感謝していました。なぜなら10年前に私たちは彼がアリヤーするのを支援していたのですが、今回は息子のデミトリーと家族が彼に合流することになったのです。この男性にとってなんという素晴らしい再会となるのでしょうか。彼は、自分の孫娘に本当に久しぶりに会うことができるのです！

デミトリーと妻のアナと娘のディアナは、エベネゼルの支援に本当に感謝していました。私たちは彼らの書類の準備や、領事面会の交通費、またイスラエル帰還の飛行機に乗るための空港への送迎などの支援をすることができました。書類を全部そろえるためには何ヶ月もかかりました。また、デミトリーの父親もイスラエルからの手紙を書く必要がありました。

デミトリーは、エベネゼルの支援がなければアリヤーするのは本当に難しかっただろう、と語っていました。私たちは彼らの上に神様の豊かな祝福を願っています。



モルドバ



パベル&リナ  
Pavel & Lina

## 思いが変えられて！

バレリアの義理の娘にはイスラエルへ行く願いが全くありませんでした。しかし、神様は別のご計画をお持ちだったのです！

バレリアは年配の女性で、しばらく前にアリヤーしました。彼女の大きな願いは、息子のセルゲイとその家族が彼女に合流することでした。しかし、その願いには大きな一つの障害があったのです。それは、ユダヤ人でないセルゲイの妻が自分の町を離れたがらず、イスラエルについて話を聞くことも嫌がっていたということでした。彼女の親戚はアリヤーすることができないのですから、彼女が彼らを置いて行きたくないというのは当然のことでした。

そういうわけで、みこころが何かを知っている時には祈りに大きな力があると信じて、私たちは祈り始めることにしました。私たちは、神様がご自身の民がイスラエルへ帰還することを願っておられると知っていたからです。

その1か月後に、私たちは電話を受け取りま

した。セルゲイの妻が思いを変えて、イスラエルへ帰還する気持ちになったということでした。それは奇跡でした。私たちは、その知らせを聞いたバレリアと同じように大喜びしたのです！



ロシア



エリヤ・バシュコバ  
Elya Vasyukova  
モスクワリーダー



# イスラエルへの驚くべき旅

## アメリカ



アロン・スル  
Aaron Sull

アロンは妻と四人の子供とともに  
イスラエル在住  
onestopjewishbuffalo.comの  
編集者でありコラムニスト

シャナーレは、フロリダのマイアミビーチ出身のシンガーソングライターであり4人の子供の母です。彼女は、正統派ユダヤ人の家庭に育ち、24歳の時にマンハッタンでイスラエル生まれの夫に出会いました。彼らはそれからフロリダに移り住んで、子供たちが学校に通う年齢の時に、2016年の騒然としたアメリカでの選挙の年、反ユダヤ主義の脅威を感じた彼らは、イスラエルへ帰還したいという願いを持つようになりました。

「私たちには3人の娘と一人の息子がおります。ハダサ(10歳)ヤッフア(8歳)サラ(4歳)とナタナエル(2歳)です。私たちが彼らにアリヤーを考えていると伝えると彼らはとても喜んでいました。」とシャナーレは言いました。「私の子供たちは聖地についてと聖地とユダヤ人の関係についてよく学んできましたので、彼らは私たちが航空券を予約したかどうかを気にしていました。」

彼らの心はアリヤーすることに定まっていましたが、これは決して簡単な決断ではありませんでした。「4人の子供を連れて、住み慣れた家と自分の仕事も離れて、見知らぬところに進んで行くことはとても難しいです。」とシャナーレは説明していました。「私たちにとって大きなハードルだったのは、この引っ越し

にかかる経済的な負担でした。」しかし彼らは神様の助けを信頼しました。「神様は私たちにエジプト作戦USAを送ってくださいました。」

シャナーレはこう言いました。「アリヤディレクターのキャシー・アーディノとリーダーのデボラ・ミノッティが電話をくれて、支援します、と言ってくれた時、初めてこの旅がただ自分たちだけのものではない、と感じることができました。彼らは私たちを家族のように受け入れてくれました。そしてずっと励ましサポートし続けてくれたのです。」

「シャナーレと働くことは目まぐるしい体験でした。」と、キャシーは意気込んで語っていました。「彼女は積極的で忙しく家庭の主婦をしていました。彼女のイスラエルへの深い愛は周りに伝わってきます。彼女は両親の元を離れるのは悲しそうでしたが、彼女と家族の人生の次のステップを踏むのをこれ以上待つことはできなかったのです。彼らのイスラエル移住は注意深く計画されたものでした。」

今日シャナーレと彼女の家族は、ベト・シエメシュに住んでいます。家族とともにアリヤーする決断をこの上なく喜んでいます。





# とりなしの力

「そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。」マルコ2:3-4

これは、聖霊が私たちに示してくださった、共同のとりなしの実際的な働きを力強くあらわしている箇所です!この4人の男性は一つの使命、一つの目的、一つの計画を持っていました。彼らがどれほどこのことのために献身していたかは想像することしかできません。自分の権利、プライド、エゴ、快適さ、評判など。一緒に集まりともに従い合い、弱さを受け入れ合い、お互い励まし合って、ともに彼らが神様から受け取った共通のビジョンに従って進んで行きました。

しかし、確かに障害がありました。彼らがこの病気の人の健康のために何かをしようと決めた瞬間から、そのことは簡単ではないということが彼らにはわかっていました。しかし彼らはお互いにサポートし合いました。この寝たきり

の病気の男性には、神のみこころがなされるために自分をささげている4人の友人がいたのです。

愛する皆さん、私はこれを読む時に、どれほどユダヤ人の兄弟姉妹たちを、私たちが助ける必要があると心に残しました。

人の子からユダヤ人たちへの心の叫びは、「わたしは、めんどりがひなを翼の下にかばうように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。・・・」(ルカ13:34) このことが、これから実現されるのです。主はただ父の目的だけを心に抱いている信者たち、すなわち、神の国が訪れるのを見るまで、愛によってお互いに従い合い、お互いのために祈り合い励まし合う者たちを探し求めておられるのです。

ですから、私たちはアリヤーの働きを神とともにしていく中、お互いのために祈っていきましょう!私たちは聖さを保ち、愛によってお互いに支え、励まし合ってともに前進していくことが大切です。主は私たちにこのような緊急性のある使命を託してくださっているのです。私たちがともに前進して行くならさらに大いなることが現わされることでしょう!

祈り



シンシア・ジョセフ  
Cynthia Joseph  
インド祈りのリーダー

engage:Israel

## EXPLORERS EXPERIENCE

Explore the Land of miracles, see the ancient stories of the Scriptures come to life, walk where Jesus walked and go deeper in your faith as we enjoy times of teaching, worship and prayer. Make friends for life as you go on the journey of a lifetime – The Explorers Experience.

## 1 TRIP 3 EXPERIENCES

## WARRIORS EXPERIENCE

Have you been to Israel and are looking to go deeper? Do you want to grow in worship and intercession? Join us on the Warrior Experience and plunge deeper in your understanding with expert teaching on prayer, intercession and worship in the end time army of God.

## AGES 18-35+

## PIONEERS EXPERIENCE

This hands on experience will join you to the Land of Israel like never before. Literally put your hands on the Land as we use our hands to plant trees, paint and build houses, spending an exciting time with locals who are really seeing Israel grow from the roots up. Get a close up view of Biblical prophecy coming to life on this ground-breaking experience!

### DATES

### PRICE

Explorers:	11-22 July 2019	\$1690 (full board, excl. flights)
Warriors:	22-29 July 2019	\$1190 (half board, excl. flights)
Pioneers:	22-29 July 2019	\$990 (half board, excl. flights)

Early bird  
discount  
before May 1<sup>st</sup>

More info in Social Media:

EbenezerInt: [f](#) [ig](#) [tw](#) & [operation-exodus.org/young-adults](http://operation-exodus.org/young-adults)



# 大きな支援の手



ダニエル・モル  
Danielle Mor  
イスラエルユダヤ機関  
イスラエルとグローバル  
慈善部門副会長

愛する皆さん、私はユダヤ機関を代表して、エベネゼルのスイスからのボランティアの方たちが、ナハリヤにある新しいオリムのために、吸収センターで奉仕してくださったことに心から感謝いたします。彼らがなしてくださった働きの質と範囲は驚くべきもので、彼らはその全てを素晴らしい愛に満ちた態度でなしてくださいました。

彼らはいくつかの大きなプロジェクトー給水塔がさび付かないようにペンキを塗ったり屋根を修理したり、新しい屋根や中央の壁を取り付けたり、門のペンキ塗り、子供のプレールームのペンキ塗りや、いくつかのオリムのアパートの修理に至るまで、多くの働きを担ってくださいました。

スタッフとオリムは本当に感謝し、感動の涙を流していました。彼らはその奉仕の最後の日には、彼らのために準備した北部へのツアーを行いました。そのツアーでは、レバノンと



の国境や、スイスからのオリムたちが住んでいるハニタ・キブツを含むいくつかのキブツを訪れました。

私たちはそのスイスからのオリムの一人にこのツアーのメンバーに話してもらいました。これはとても特別な時となりました。彼らはまたチョコレートとドライフルーツのワークショップにも参加して、イスラエルの果物を楽しみました。この日のツアーの最後には、スタッフとオリムとともに特別な式を催しました。そこでボランティアの方たちの家族のために特別な祝福を祈りました。

私たちは、ボランティアの方たちがこの経験を意味深い重要なものとして持ち帰り、また彼らが心からの支援をしたことにより、彼らとナハリヤの吸収センターの人々との間の架け橋となったことを理解していただきたいと思います。オリムたちは彼らのことを決して忘れないでしょう。



## Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

**Ebenezer Operation Exodus  
International & UK Office**  
PO Box 9103, Bournemouth  
BH1 9DA, UK  
+44 (0) 1202 294455  
enquiries@ebenezer-ef.org  
www.operation-exodus.org

**Operation Exodus USA**  
PO Box 568 Lancaster  
NY 14086  
Phone: 716 681 6300  
info@ebenezerusa.org  
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号  
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)  
office@ebenezerjapan.org  
http://ebenezerjapan.org/  
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金  
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実践的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実践的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。